

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/labo/>



スマートキッズジュニア天神橋

一人ひとりがきれいにいろどった笑顔の花火を、黒の模造紙にのりやボンドで貼り付けて、教室を出たときの素敵な夜空を表現しました。

世界自閉症啓発デー～スマートキッズの取り組み

所員 鷹巣 愛・村上 浩将

4月2日の世界自閉症啓発デーに合わせて、日本でも発達障害啓発週間として、自閉症スペクトラムをはじめとする発達障害の理解や啓発が推進されています。スマートキッズ発達支援研究所でも、発達障害への正しい理解を広げるとともに、社会参画を進め、誰もが幸せに暮らすことのできる社会をつくっていきたくて考えています。

そこで今年は、スマートキッズの児童発達支援・放課後等デイサービスに通う子どもたちとともに、2つの企画を実施しました。それぞれについて、ご紹介いたします。

①教室ポスター展示会「教室のシンボルマークを考えよう！」

池袋にて、子どもたちのポスター作品展示会を行いました。今年で4年目になります。今回は「教室のシンボルマークを考えよう！」をテーマに、自分たちの通う教室の「シンボルマーク」をみんなで話し合って考え、協力して各教室のシンボルマークを描き、ポスターにしました。

ある教室では子どもたちからシンボルマークに入れたい物としてたくさんの意見が上がったため、教室スタッフが「教室がある場所に関連があるものを取り入れたらどうか」と提案し、子どもたちの好きな動物と教室近くのランドマークを組み合わせたシンボルマークを作ることに決めました。

ポスター制作の段階では、「動物を描く係」「色を塗る係」「折り紙を貼る係」など、子どもたち一人ひとりの得意なものを担当してもらい、役割分担をして作業を行いました。子どもたちは自分の担当した係以外のところでも、「私もここに塗るね」「ここにものりを貼っておくね」など声を掛け合い、協力しあって取り組んでいました。

子どもたちは皆で意見を出し合ってポスターのデザインを決め、実際にポスター制作していく過程を通して、お互いの意見や役割を大切にすることや協力し合って一つの作品を完成させる楽しさを経験できたのではないかと思います。



②スマートキッズ教室合同イベント「藝大サンバパーティーとともに歌おう！踊ろう！」

スマートキッズではこれまでもさまざまな地域交流を実施してきましたが、今年2月、初めての試みとして東京藝術大学サンバ部との交流を行いました。サンバ部にはバイオリン奏者のジュリア・ヒルさん(きらっと前号の執筆者)もいらっしまったため、美しいバイオリンの音色と、情熱的に盛り上がるサンバの音楽をともに楽しめる企画となり

ました。そのような貴重な機会でしたので、会場近隣のスマートキッズ各教室が集まり、子どもと大人をあわせて100名近いメンバーで、音楽を介した交流を行うことができました。

子どもたちの準備は、本番の数日前から始まりました。サンバを一緒に楽しむために、「マイ楽器」を制作し、持参することにしました。もちろん、音楽は歌やハンドクラップのように自分の身体で奏でることもできます。しかし、目の前でサンバ部の学生たちが楽器を叩く様子を見たら、子どもたちはきっと居てもたってもいられなくなるでしょう。

「一緒に楽器を叩きたい！鳴らしたい！」

——そんな思いをスマートキッズのスタッフたちは予想し、教室で楽器制作の時間を設けたのでした。そうしてできた牛乳パックのカスタネット、ペットボトルのマラカス(右の写真)など、自分だけの楽器を手に、子どもたちは会場に集まりました。



イベントはバイオリン演奏からスタートしました。その美しい音色を聞くことで気持ちが落ち着き、集中力につながるだろうという意図で取り入れた流れでしたが、子どもたちは実際に、その後のサンバの楽器紹介にも集中して耳を傾けている様子でした。音楽の力を感じるとともに、子どもたち自身もとても興味をもって音楽を楽しもうとしていることも分かりました。

そして、高らかな笛の音とともにサンバの演奏が始まったら、ただ鑑賞するだけではない「一緒に楽しもう！」の時間です。子どももスタッフもみんな立ち上がって、それぞれの楽器を鳴らして音楽と踊りを思い思いに楽しみました。はじめは緊張の面持ちだった子どもも、学生たちの笑顔を見て、すぐに表情が輝いていきました！

実際のところサンバは大音量ですので、そうした音が苦手な、休憩室で休む子どももいました。ただ、その中でも「一緒に楽しもう！」の時間は、自分の楽器を振ったり、耳をふさぎながらでも一緒に踊ったりする子どもがいました。

聴覚の特性をもつ子どもにとって、「音楽を鑑賞する」だけの時間は、時につらいこともあるでしょう。しかし、今回のイベントをとおして、「音楽に自分も参加する」体験は子どもたちにとって楽しい時間になる可能性を感じました。

もちろん無理は禁物ですが、スマートキッズでは引き続き、子どもたちにとって大切な体験ができるイベントをご用意していきたいと考えています。



<プロフィール>

所員 鷹巣 愛

(公認心理師・臨床発達心理士)

これまで特別支援学校や病院、児童発達支援・放課後等デイサービスにて、子どもから大人まで日常生活で色々な困りを感じている方々の支援に携わってきました。1人ひとりの個性や生活している環境等を踏まえ、「今必要な支援は何か」を考えて日々支援を行ってきました。

これまでの知識や経験を活かし更に研鑽を積みながら、お子さまが日々の生活を楽しんでいることができるように、尽力していきたいと思っております。

所員 村上 浩将

(臨床心理士・公認心理師・学校心理士)

学校や児童発達支援、放課後等デイサービスにて、さまざまな個性がある子どもたちと直接かかわってきました。そして教育・心理の専門家として、一人ひとりの居場所をどのようにつくっていくのか、安心して成長できる場とはどんなものなのかを考え、実践してきました。

これからも「スモールステップ」でお子さまのもつスキルを伸ばし、いずれはお子さま自身が自分で居場所をつくっていけるように、保護者の皆さまと力を合わせた支援を提供していければと思っております。